

高校普通科の再編提案

毎日新聞

中教審WG 課題解決力など重点

高校教育改革について議論している中央教育審議会（ワーキンググループ）（WG）は、高校の普通科を再編し、教科横断型の教育や地域の課題解決に向けた学習に重点化した学科を新設する案をまとめ、17日の特別部会に報告した。普通科は高校生の7割が通うが、画一的なイメージから脱却し、学校ごとの特色や魅力しゅりを進める狙いがある。

高校の学科を規定する高校設置基準（省令）を改正し、2022年度からの導入を目指す。普通科の再編は、1948年の新制高校の発足以来初となる。

WGが示した案は、新設する学科の具体例として、①SDGs（持続可能な開発目標）の実現など現代的な課題に対応するため、教科横断型の教育に重点的に取り組む学科②地域社会の将来を担う人材育成のため、地域が抱える課題解決に向けた学びに力を入れる学科——などを示した。

現在の普通科をこうした新学科へ改組する際には、

目指すべき学校像（スクール・ミッション）や教育方針（スクール・ポリシー）を受験生や地域住民らに分かりやすく発信することも

国の議論先取り 各地で動き進む

教科横断型の学習や地域課題の解決に向けた学びを重視した教育の実践は、現行制度の枠組みでも、専門学科を活用したり、普通科にコース制を導入したりすれば可能だ。各地の高校では、国の議論を先取りするように普通科を活性化させる動きが進んでいる。

求めた。中教審は21年初めにも、改革案を文部科学相に管掌する。これを受けて文科省は省令を改正し、22年度から新学科が設置できるようになる見通しだ。

高校の普通科改革を巡っては、政府の教育再生実行会議が昨年5月、学習の方向性に基づいていくつかの類型に分類することを提言していた。【大久保昂】

沢興譲館、酒田東の3校で、普通科などを改編し、課題解決型の学習に取り組む専門学科として「探究科」を設置した。寒河江、新庄北、長井の3校は普通科の中に「探究コース」を設けた。

大学入試改革で思考力や表現力が重視される傾向にあることに加え、地域特有の課題解決を通じて学校と地域の連携を深める狙いもある。県教委の担当者は「少子高齢化が進む地方では、地域活性化に向けた人づくりが高校の大きな役割だ。探究科などを設置していいなくても、地域の課題を学ぶに生かす高校は増えている」と話す。

大阪府教委は11年度、高いレベルの英語教育と教科の枠を超えた課題解決型の学習に力を入れる「文理学科」を府立高10校に設置。生徒による学習発表会や教員同士の交流などを通じて、授業に磨きをかけてきた。府教委は「相当なノウハウが蓄積されている」と胸を張る。こうした中で再編に踏み込む狙いについて、文部科学省は「多様な学びに向けた動きを後押ししよう」ということだ」としている。

【大久保昂】